
双子座の約束

桜 美咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双子座の約束

【Nコード】

N7670J

【作者名】

桜 美咲

【あらすじ】

双子の雷と空は、6歳のときに隣に住んでいたお兄ちゃんと毎年、双子座を見る約束をする。近所のお兄ちゃんは、家の事情により、引っ越してしまう。中学1年生になった雷と空は、男子校である星蘭学院に入学する。入学式、二人の担任の先生は、なんと……

プロローグ 『7年前の星空』（前書き）

やっちゅー！桜です♪

なんとなくB L小説を書き始めました！

B Lわ無理！というかた、お逃げください♪

プロローグ 『7年前の星空』

7年前!

「○○くん○○くんあのお星様は、双子座でしょ?」

「そうだよ、らいとそらみたいに双子座だよ。らいとそらも、双子座だね。」

『うん!双子座!!』

「だから」「とっても」「仲良し!!」

「僕たちは」「○○くんも」「大好きい」

「ねえねえ、毎年、ここで双子座を3人で見られる?」

「そうだね、3人で見れるといいね」

「じゃあ」「約束だよ?」

「『指きりげんまん嘘ついたら針千本のゝます!指きった!』」

プロローグ 『7年前の星空』（後書き）

まず、プロローグです。

一話わ近いうちに更新予定！

よろしければ、読んでみて下さいね♪

第1章 『不思議な出会い』（前書き）

お久しぶりです！

近々更新と言っておきながら随分いえ、大分またせてるじゃねえか
コノヤローという感じがですが。

お兄さん×双子の年下攻BL小説になっております。

心の広い方！どうぞ、お読みください（美「」）

第1章 『不思議な出会い』

玄関から大きな声が家中に響き渡る。

「そらぁ！早くしないと遅刻するぞっ」

その声に反応して爽やかな声が返ってくる。

「うん！今行く」

玄関へ優しげな少年がかけてくる。

「お待たせ！忘れ物だよ はい、入学申請のはがき」

そらと呼ばれた少年は活発な少年の鞆にはがきを入れる。

「そ、そんなこと分かってる 今、取りに行こうとしたところだ！」

活発な少年はむすっとした表情になる。

「はいはい、さ、早く行かないと入学式に遅れちゃうよ」

そう言って活発な少年を置いて歩き出す。

「ほら！俺がさっき言っただろ！早くしないと遅刻するぞって！俺は先に行ってるからな」

そう言って活発な少年は走り出す。

「ちよ、待ってよ！らい！僕も一緒に走るよお」

活発な少年につられて優しげな少年も走り出す。

2人の少年は無邪気な表情で中学校へとかけて行った。

ここで先ほどの少年二人のプロフィールを公開！

活発な少年の名前は青蓮寺 せいれんじ 雷 らい

活発な性格でスポーツ万能成績優秀だが

弟の空には頭が上がない。

気が強くある一線を越えると手がつけられなくなる。

1卵生の双子の兄にあたる。

4月から青蘭学院中等部の1年生になる。

身長…156cm

体重…43kg

容姿…黒髪ではねのある癖っ毛　わりと細身だが、がっしりした体系。

優しげな少年の名前は青蓮寺 せいれんじ 空 そら

優しげな性格で兄と同じくスポーツ万能

成績優秀の上に兄よりもしっかりしている。気が弱く思われがちだがある一線を越えると手のつかられないほどに積極的になる。

1卵生の双子の弟にあたる。

4月から青蘭学院中等部の1年生になる。

身長…153cm

体重…42kg

容姿・薄い茶髪で短めのストレート。雰囲気の通りスラッとして、軽やかな体系。

青蘭学院の門まで走ってきた二人は、合図を出したかのように同時に歩き出す。

「よかったあ、間に合ったみたいだね」

空はニコニコしている。

「当たり前だ！この俺の脚あし　を持ってすればこんなことは容易い！」

いつにもまして態度がでかい雷。

「はいはい、そこの新入生！早くしないと入学式に遅れるぞ！そこにクラスの振り分け表があるからそれ見て自分のクラスに行きなさい。」

そこへ、長身で黒髪の先生らしき青年が声をかけてきた。

「はあい！雷、早く行こうよ　同じクラスだといいね」

「はあ？学校でも空と一緒になんてゴメンだね！」

雷は少し顔を赤らめながら空と一緒に振り分け表を見に行こうとした。

「2人とも　大きくなったね　これからが、楽しみだ」

雷と空に向かって青年はのすれ違いざまにそう確かにつぶやいた。

雷と空は同じAクラスだった。

二人揃ってAクラスに入るともう、ほとんどの生徒が来ていていくつかのグループに分かれて話し合っていた。

「お！来た来た！噂の双子だぜ！」

2人が教室に入るが否か何人かの生徒に自分たちが双子であることを知られていた。

「俺、さいとう斎藤 だいすけ大祐 ! よろしくなっ噂の双子君♪えーっと名前は・

」

真っ先に、声をかけて来たのは絶対、クラスのムードメーカーになるであろう性格の大祐という少年だった。

「僕は、弟の青蓮寺 空 こっちが兄の青蓮寺 雷だよ。よろしくね！大祐君♪」

やはりここは、しっかり者の空が答える。

「うるせえ奴だなあ まあ、俺は心が広いからな仲良くしてやるよ。

」

言葉ではこう言うが実際のところは顔を赤らめるほどうれしいのだろう雷の目線はそれている。

「顔はそっくりなのに性格は似てないんだな！それになんか、空の方は薄茶髪のストレートだからその性格そのまんまって感じだけど雷も雷で黒髪で毛先癖っ毛だから活発そうに見える（笑）なんかすげえな！双子って皆そうなのか？」

大祐は興味深々で2人を見つめる。

「確かに僕たちは特殊みたい 普通1卵生だと容姿はそっくりのはずんだけど、僕と雷の場合は顔は似てるのに髪質は全然違うみたいなんだあ だから、普通の双子だったらこうはいかないかも」

そういつて空はニコリと笑う。

その瞬間周りの男子たちの視線がこっちに向けられた気がしたのは雷の気のせいだろうか。

「おい、そろそろ時間じゃないのか？」

珍しく雷がしっかりしたことを言う。

「そう言えばまだ、先生が来て無いよね」

空が首をかしげる。

「もうじき、来るだろっ♪」

大祐は余裕の様だ。

廊下の方からかけて来る足音がして来た。

タッタッタッタ

ガラッ！

「すみません、少し遅くなりました。1年Aクラス担任を勤めさせていただきます。星魅^{ほしみ} 宙^{ひろ} です。1年間よろしくお願いしますね。」

自己紹介をしたのはまだ、新任であろう先ほどの青年だった。

第1章 『不思議な出会い』（後書き）

なんとか更新できました。

桜 美咲です。

BLとか言いつつ、そういう要素が何一つ無しのまま終わってしまいました。

まあ、こういうこともあるんだよ↑おい！

次回はちよつと急展開なのかなあ。。

まあ更新できるようがんばります（美———）

第3話 『先生には彼女いますか?』 (前書き)

おは☆こん☆ばん☆にちは!

桜 美咲です♪

最近暇なんですよねww

ということで双子座の続き更新します♪

第3話 『先生には彼女いますか?』

「ふあああああ 終わったあ!」

大きなあくびと伸びをしながら、大祐が教室に入ってくる。

長ったらしい入学式が終わり、今からは学級活動の時間だ。

「先ほども言いましたが、私の名前は星魅 宙と言います。今年1年この1-Aの担任をする事に鳴りました。私は教員になって2年目になりますが、担任を持つのは今年が初めてですので、至らないところがあるかもしれませんが、今年1年間皆と仲良くやっていきたいと思いますのでよろしくお願いします。」

星魅先生は簡単な自己紹介を済ませると連絡を始める。

「授業は来週からになります。今週は主に学級活動になり、クラス組織や写真撮影をする予定です。その他にも家から持ってくるものなどありますので、しっかりと保護者の方に今配った書類を渡すように。」

人とおり必要事項を話し終えたと。

「はい、ここで先生に質問がある人!」

「はい! はい! 先生はいくつですか?」

真っ先に1番前の席の生徒が質問する。

「お！絶対でと思ったよ！今現在の先生の年齢は22歳です。今月中に23歳になるけどね。」

クラス全体からわけえ〜という声が響き渡る。

「他には何かあるか？」

「先生の好きな食べ物は？」「先生の好きなスポーツは？」「どうして先生になったの？」など色々な質問に星美先生は答えていく。

「先生に彼女はいますかあ？」

大祐の大きな声が響く。

「実はいねえんじゃねえの？」

ざわざわとしやべりだす。

「先生に彼女はいません。理由は好きな人がいるから、告白されても断っているからです。」

そういいながら星魅先生は双子のほうを見てニコリと笑う。

「じゃあ、好きな人ってどんな人？」

キーンコーンカーンコーン キーンコーンカーンコーン

チャイムが鳴る。

「はい、質問はそこまで。また時間があるときに答えてあげるよ。今日はこれで、下校になります。ちゃんと連絡を保護者の方に伝えてね。あと、明日自己紹介退会をするから、なにを言うか考えてくること！」

あいさつを終えると次々に生徒たちは下校していく。

「なあ、あの担任俺たちのほう見てなかった？」

雷は不機嫌そうに空に問いかける。

「そうかもね。」

「それに、今朝言ってたこと・・・気になるなあ」

空は小声でつぶやく。

「なんか言ったか？」

来が聞き返すと空はなんでもないと言って教室の出入り口のほうへ歩き出すと。

「なあなあ！お前らの家、どこら辺？」

大祐が勢い良く聞いて来る。

「〇〇駅から10分くらいのところだよ。」

そう、空が答える。

「マジで！俺その次の駅で降りるからさ、一緒に帰らねえ？」

雷は少し嫌がっていたが空が了承してしまったため、仕方がないと
言いつつ頬を赤く染めている。

3人は話しながら1番最後に教室を出た。

「やっと会えたね。らいにそら。これから2人には楽しませてもら
うよ。」

星魅は一人そう呟いていた。

第3話 『先生には彼女いますか?』 (後書き)

なかなか、話が進まないww

本当にBLなのだろうかって感じですが

まだ?これからです!

でわ?また、近いうちに♪

桜でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7670j/>

双子座の約束

2010年10月16日02時07分発行